

環境社会システム学研究室

こんな問題に取り組んでいます

ライフサイクル的思考の観点から真に望ましい社会の実現を目指して、地域社会の活動や個人の行動がもたらす環境影響の定量化、およびその対策設計に関する研究を進めています。

こんなことがわかってきました

緑化や省エネなど都市を冷やす対策は、場所(都心か郊外か)や時間・季節によって、低減される環境影響が変化します。合理的に対策を設計するためには、さまざまな環境影響を定量化する必要がありますが、睡眠障害が大きいことがわかってきました。

研究の成果はこんな分野に活かされます

地域社会の活動に関する研究成果は、政府や地方自治体が政策を立案・実施する際に役立っています。また、個人の行動に関する研究成果は、消費者に伝達することにより、個人ベースでの低炭素型行動の実践に寄与しています。

連絡先: 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 環境システム学専攻
井原智彦(環境社会システム学研究室) <ihara-t@k.u-tokyo.ac.jp>

